

平成30年度

市民アンケートの結果を公表します



市では、「第6次鹿角市総合計画」において、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指し、各種施策を実施しています。

市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、それらの施策の効果と需要を調査・把握するほか、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

満18歳から74歳までの市民700人の方に配付し、495人の方（回収率70.7%）から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。



子育て支援の満足度

48.3%

前年を5.4ポイント下回る結果となりました。マイナス評価の理由としては、前年と同様に「子どもの医療体制」を挙げた方が多く、里帰り出産の受入停止や今年10月にかづの厚生病院の分娩機能が本館に集約されることが影響していると考えられます。一方、60代を除くすべての年代から50%を超える評価が得られていることは、継続して行ってきた子育て支援策が効果を上げているものと捉えており、引き続き、安心して出産・子育てができるまちづくりを推進していきます。

健康づくりについて

健康寿命の延伸に関連した「健康寿命」「主観的健康観」「脳卒中による死亡率の高さ」や、「テレフォン病院24」の認知度について調査しました。

中心市街地の環境に満足している割合

49.1%

前年を4.7ポイント下回る結果となりました。買い物をする場所や遊ぶ場所が少ないといった回答のほか、駐車場が少ない、公共交通機関が不便、といった交通手段にかかわる回答が例年同様になくなっていきます。中心市街地の満足度を高めるために、駅前広場の整備とともに、コモッセとの連携や交通アクセスの強化、さらには買い物客の増加に結びつく商店街の魅力を向上させる取り組みが必要です。

男女の地位が平等であると感じている市民の割合

25.9%

基準値である平成27年度市民アンケートの結果19.0%を6.9ポイント上回っており、また、26.3%の男性が「平等である」と回答したのに対し、女性は25.1%と、男女間の意識差が縮小傾向にあります。しかし、「男性が優遇されている」「やや男性が優遇されている」と回答した方の割合は63.0%と依然として高く、前年の59.0%から4.0ポイント増加する結果となりました。性別に関わりなく、個性や能力を発揮できるよう、啓発活動に取り組みます。

1年間に芸術鑑賞に親しんだ割合

34.9%

前年より1.4ポイント上回っており、社会教育行政中期計画（H28～H32）の目標値である30%の達成が継続されています。しかし、そのうち、コモッセで芸術鑑賞をした割合については78.7%と前年より6.0%下回っており、「鑑賞したいものがなかった」という回答が多かったことから、今後も利用者のニーズを把握し、魅力的な芸術鑑賞機会の創出に力を入れていきます。

週1回以上の頻度で運動する割合

50.9%

前年より5.4ポイント下回りました。平成25年度以降、継続して50%以上を保っていますが、平成32年度の目標値である65%からは遠ざかる結果となりました。40代の働き盛り世代の実施率は例年低い傾向にありますが、今年度は30代の実施率が最も低かったことから、引き続きチャレンジデーやタートルマラソンなどのだれもが参加できるイベントを継続して開催し、多くの方がスポーツに取り組むよう啓発に努めるなど、特に働き盛りの世代の運動実施率を高めていきます。

公共交通に不便を感じる割合

23.2%

「健康寿命」という言葉については、9割以上の方が認知しているものの、「主観的健康観」については、国の調査結果と比較して、14.3ポイント低い71.2%となりました。また、「脳卒中による死亡率の高さ」については6割が認知していますが、前触れ発作については3割程度の認知に留まりました。「テレフォン病院24」については、利用したことがない方のうち、半数以上が「知らなかった」と回答しており、一層の周知を図ることが必要です。

※主観的健康観：医学的にではなく、自分で自分のことを健康と思っているかどうか。主観的健康観を高めることで、健康づくりへの意識が高まり、健康寿命の延伸に繋がるとされています。

社会活動・地域活動の参加割合

56.6%

前年より5.3ポイント下回りました。年代別では、60代が68.2%と最も高い参加割合となっていますが、前年からは6.4ポイント減少しており、いずれの世代も基準値の70.5%に到達していません。地域活動に参加しなかった理由としては、仕事の都合や育児のほか、活動の情報を知らなかったという意見が多く、特に若年層の関心が薄い状況でした。今後は、地域コミュニティの活性化が図られるよう、多くの世代が活動に参加できるような仕組みを構築することが重要です。

住みぐちに満足している割合

51.1%

前年より1.4ポイント下回る結果となりました。住みぐちについては、福祉や雇用、コミュニティなどを含む総合的な指標であることから、総合戦略に定める目標値である60%を目指して、本市の持つ魅力を十分発揮したまちづくりと計画的な社会基盤の整備を推進していきます。

インターネット利用者の割合

73.1%

は、運行本数が少ない、利用したい時間と合わないといった意見が今年も多く寄せられています。利用者数の減少に伴い運行本数を縮小してきた経緯もあり、増便は難しい状況にありますが、広範囲に分散した需要をカバーするため、予約型デマンド運行や地域主体の乗合交通の取り組みを進めるなど、地域に必要な公共交通の維持に努めていきます。

前年の58.0%を大きく上回る結果となりました。スマートフォンやタブレット端末の普及により、インターネット利用の利便性が向上したことが、40代から60代の利用率を押し上げており、幅広い年代で浸透していることがうかがえます。市では引き続き、インターネットをツールとした情報発信やサービスの拡充を進めます。

鹿角に愛着を感じる割合

69.3%

前年を4.3ポイント下回ったものの、平成32年度の目標値である68%を引き続き上回りました。地区別では花輪地区が2.2ポイントの減、十和田地区が11.1ポイントの減、尾去沢地区が12.2ポイントの減となった一方で、八幡平地区が10.0ポイントの増となっています。また、年代別では3歳未満が3割程度減少しました。全体としては一定の水準を保っていると捉えています。愛着は市民のふるさとへの誇りを高め、市外の方が訪れたくなるような魅力的な地域づくりの礎となることから、地域間や年代間の差を分析し、今後も引き続き鹿角ブランドを確立する取り組みを進めていきます。

